

令和4年度第2回

札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会

会 議 録

日 時：2022年12月14日（水）午後3時開会  
場 所：札幌市役所本庁舎 18階 第2常任委員会会議室

## 1. 開 会

○大沼会長 定刻より若干早いのですが、今日出席予定の皆様がおそろいになりましたので、令和4年度第2回札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を開催いたします。

まずは、事務局から出席状況などの連絡事項をお願いいたします。

○事務局（石田環境教育担当係長） 委員の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症が影響を及ぼす中、また、年末の大変お忙しい中をお集まりいただき、誠にありがとうございます。

そして、私ごとですが、10月に異動がございまして、谷内の後任として着任しました石田と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

委員会の委員の出席状況ですが、松田委員、三浦委員、有坂委員、福岡委員から欠席のご連絡をいただいております。

本日のご出席は10名で、委員数14名の過半数に達していることから、推進委員会設置要綱第5条第2項の規定により、本委員会が成立していることを報告いたします。

最後に、これからの議事進行に当たって、委員の皆様をお願いががございます。

本日は、マイクの本数を人数分ご用意できませんでしたので、ご発言の際にはお近くの方とマイクを共用していただくこととなります。お手数ですが、各テーブルにご用意しておりますウェットティッシュで、適宜、拭いて使用していただきたいと思います。よろしく申し上げます。

以上でございます。

○大沼会長 急遽、福岡委員もご欠席、三浦委員もご欠席ということで、学校の先生方は急にご用事が入るようでして、学校の先生は、一年じゅう師走のような方が多いような気がいたしますが、そんな季節かなと感じました。

引き続きまして、議事に先立ちまして、札幌市環境局環境都市推進部の菅原部長からご挨拶をお願いいたします。

○菅原環境都市推進部長 環境都市推進部長の菅原でございます。

開会に当たりまして、一言、ご挨拶させていただきます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、まだまだ予断を許さない状況にありますけれども、今年度は、3年ぶりに札幌ドームでの環境広場さっぽろの開催など、感染対策を講じた上で環境教育・環境学習を進めてまいりました。本日は、そういった今年度の取組状況を報告させていただきますので、皆さんから忌憚のないご意見をよろしくお願い申し上げます。

さて、来年の4月15日、16日にG7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合が札幌で開催されることとなりました。このような会合にふさわしいまちとして選ばれた札幌市の魅力を世界に発信する絶好の機会となります。開催を契機として、気候変動対策をはじめ

とする環境保全に係る理解の促進や意識の醸成、具体的な行動の変容につなげることができるよう取り組んでまいります。

とりわけ、これからの未来を担う若者に環境保全に関わりを持ってもらうことはとても大切なことであると考えており、それらを促すための環境教育や環境学習の重要性はますます高まっていくものと感じております。今後も、教育委員会や関係機関のご協力を仰ぎながら、環境教育や環境学習の一層の推進に取り組んでまいりますので、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

本日は、よろしく願いいたします。

○大沼会長 ありがとうございます。

G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合の札幌開催ということで、札幌市の環境局の職員もかなり吸い取られていると伺っております。大変なところ、各方面の準備をありがとうございます。

## 2. 議 事

○大沼会長 それでは、議事に入らせていただきます。

本日の議事は、令和4年度環境教育関係事業の実施状況及び今後の予定についてです。

委員の皆様には、事務局の説明の後にご意見をいただきたいと思っております。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（石田環境教育担当係長） まず、資料の確認をさせていただきます。

本日お配りした資料は、次第、資料1の委員名簿、資料2の令和4年度環境教育関係事業について、そのほか、参考資料1から8を配付しております。

それでは、今年度の環境教育関係事業の実施状況及び今後の予定についてご説明させていただきます。

本日は、環境局実施事業は私から、教育委員会の事業は教育委員会教育課程担当課の阿部係長から、環境プラザの事業については環境プラザの宮西主任からご説明させていただきます。

それでは、お手元の資料2、令和4年度環境教育関係事業についてをご覧ください。

参考資料などもご覧いただき、補足しながらご説明させていただきます。

まず、冒頭の1 はじめについては、第1回推進委員会でご説明済みですので、割愛させていただきます。

下段に記載がございます（1）から（4）の四つの取組について、各事業の今年度の実施状況及び今後の実施予定について順にご説明いたします。

2 ページ目をご覧ください。

まず、（1）学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進、ア 環境副教材・教師用手引書についてです。

毎年度、市立小学校の新1年生、3年生、5年生の全児童に環境副教材を配付しており、

それぞれ2か年にわたって利用いただいています。またあわせて、教師用手引書も作成しています。より利用しやすい副教材、手引書とするために、理科、社会科、家庭科、生活科、特別な教科道徳の各担当教員によるワーキンググループを組織して、毎年度、改訂作業を行っています。現在は、令和5年度版を校正作業中ですので、来年度第1回の委員会の際に配付させていただきます。

次は、イ 環境教育へのクリック募金についてです。

インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、現在は、北ガス様をはじめ、7社の協力企業の環境活動を紹介しており、閲覧数に応じた金額、これは、ワンクリック5円、1社につき月額上限2万円で設定しております。この金額を協力企業様からご寄附いただき、それを原資に環境教育教材を購入し、希望する小・中学校へ寄贈しています。令和4年度は、令和3年度のクリック実績に応じて協力企業様から合計168万円のご寄附をいただき、小学校34校、中学校6校の計40校の全ての希望校に、手回し発電機、気体検知管、トマトやキュウリ等の野菜の苗などを寄贈しました。

なお、クリック募金のホームページ上には、寄贈された環境教育教材が各学校においてどのように活用されたかを事業報告書として紹介しています。

また、協力企業は長期的には減少傾向であり、委員からもっと周知したほうがよいのご意見をいただいたため、今年度は下記の啓発を行いました。啓発パネルを作成の上、環境広場さっぽろ等のイベントでの展示、札幌商工会議所の会報誌9月号への記事掲載、地下鉄駅掲示板にポスター掲示、三角山放送局のSDGsトークコーナーでの宣伝の四つを行いました。

お手元の参考資料1をご覧ください。

中ほどに、現在の協力企業7社の一覧と、その下に寄贈校数の推移を示してあります。また、2ページ目と3ページ目に、東栄中学校と山の手南小学校の活用例の報告を載せてあります。

2ページ目は東栄小学校となっておりますが、東栄中学校に訂正をお願いします。

4ページ目には、今年度作成した協力企業募集のポスターを載せてあります。

次は、ウ エコライフレポートについてです。

子どもたちが声かけ役となって家庭におけるエコ行動を促す取組として、平成19年度にスタートした事業です。夏休み及び冬休みの前に、市立小・中学校の全児童生徒に家庭で取り組むエコ行動を選んで実践できるチェック表を配付しています。

お手元の参考資料の2をご覧ください。

2枚目以降に今年の冬休みのレポートを添付してありますが、令和4年度は、「ゼロカーボン都市をめざそう！」をキャッチフレーズとして、冬休みは節電やごみの分別に取り組んでもらう内容としました。また、小学4年生以上には、自らエコにつながると思う行動を考えて記入し、実践してもらおう項目を設けてあります。

今年の冬休みのレポートには、2023年4月15日、16日にG7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合が開催され、世界のリーダーが環境について話し合い、よりよい未来にするための会議が札幌で開かれることを知ってもらうための記事を掲載しました。また、学校単位で、子どもたちの取組結果を二酸化炭素削減効果に換算し、これを記した認定証を配付しており、子どもたちが自ら考えて実践した取組の中でユニークなものについては、認定証の中に、ほかにもこんな取組をしてくれましたという欄を設けて紹介しています。

今年度からは、紙のエコライフレポートを各学校で回収、保管し、環境局において集約、集計するという一連の事務作業の負担を軽減するため、教育委員会と協議し、1人1台配付されているタブレットのウェブアプリケーション、グーグルフォームを使用し、各児童生徒がタブレットに取組結果を入力してもらう形式に変更することとしました。

今年の夏は、学校の先生が生徒の入力状況を確認できないシステム仕様であった等の問題があり、例年と比べて取組率が低下してしまいました。そのため、冬休みは、学校の先生が生徒の入力状況を確認できるようにシステム仕様を一部変更し、学校ごとにグーグルフォームを使って児童が入力した一覧表を環境局に送付してもらうこととしました。

次のページは、児童生徒の過去5年間の取組状況をまとめた表です。

令和4年度の夏の取組率は81.9%と、これまでの取組より低下した結果となっています。

また、参考資料2の1枚目には、夏の取組率のほか、二酸化炭素の削減量や学年ごとの取組を表にしてあります。

次は、エ 校外学習用バス貸出についてです。

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小・中学校を対象に、校外学習用バスの貸出し事業を行っております。学校現場のニーズを踏まえ、平成28年度から、市外近郊や民間施設の見学対象施設に加えて、太陽光発電や風力発電の設備、LNG、液化天然ガス基地などを校外学習モデルコースに組み込み、ホームページで紹介しているほか、各学校が独自に希望する見学先についても対応しています。

今年度は、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、児童生徒が座席間隔を空けて乗車できるよう、1台当たり25名定員とし、10月1日から11月30日の期間に37校に貸出しをしました。昨年度までは応募校全てに貸出しできていましたが、今年度は、応募校が多かったため、審査を行い、20校が希望に沿えない形となりました。来年度は、1台当たりの定員等について教育委員会と協議し、できるだけ多くの学校に貸し出せるように検討してまいります。

下に過去5年の貸出し推移と、5ページに今年度の主な見学先を載せております。

また、参考資料3には、今年度利用校の報告書の一部を紹介してあります。

次は、オ 学校での出前講座の実施についてです。

札幌市では、市民への情報提供と対話の一環として、市職員が依頼に基づいて地域に向き、所管事業について分かりやすく説明を行う出前講座を実施しています。近年は、S

D G s の普及や地球温暖化、気候変動への関心の高まりにより、これらの講座への依頼が増えており、総合学習などの事業の一環として活用されています。

下の表は、11月末現在の小・中・高のみの依頼数の実績ですが、この表のほか、町内会からの依頼などを含めるとこの2倍以上の申込みがある状況です。

次は、教育委員会からお願いいたします。

○事務局（阿部企画担当係長） 教育委員会教育課程担当課の阿部でございます。

カ 環境に関する全園・全校の取組についてでございます。

教育委員会では、環境首都・札幌の宣言日である6月25日の前後2週間をさっぽろっ子環境ウィーク期間とし、この期間中、エコスクール宣言校である全ての市立園、市立学校が環境に関わる取組を重点的に見詰め直すことで、年間を通して札幌市の幼児、児童生徒に環境を守り育てようとする態度を育てております。

引き続き、SDGsの視点で教育課程を見直し、環境について持続可能な取組をエコアクションに位置づけていきます。

○事務局（石田環境教育担当係長） 続きまして、(2)「環境人材」の育成についてです。

環境プラザさん、お願いします。

○札幌市環境プラザ（宮西主任） 札幌市環境プラザの宮西でございます。

環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣についてご紹介いたします。

市民団体、町内会、学校などに対して環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

札幌市環境保全アドバイザー派遣制度では、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題など、様々な環境分野の研修会や学習会等に専門家を派遣する事業で、令和4年11月30日時点では10人のアドバイザーに登録をいただいております。札幌市環境教育リーダー派遣制度は、主に野外での活動を通して植物や野鳥、昆虫、水生生物などを観察する自然観察分野や、地球温暖化、ごみといったエコライフ分野の指導者や解説者を派遣する事業で、令和4年11月30日時点では26名のリーダーに登録をいただいております。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策に係る緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置のため、5月4日から7月11日及び8月28日から9月30日まで派遣事業を中止したことで、派遣件数や参加人数はコロナ禍以前の年度に比べて大きく下回りましたが、今年度につきましては、通常どおり5月1日から翌年3月31日まで派遣を行う予定で、現在までの派遣件数はコロナ禍以前の件数に追いつきつつあります。例年利用いただいている団体を中心に依頼があり、小学校の依頼も戻ってきております。新型コロナウイルス感染症に留意しながら派遣を継続し、新規団体の利用促進に向けた取組を実施してまいりたいと考えております。

7ページに11月30日時点での派遣件数と参加人数等の実績を掲載しておりますので、ご覧ください。

続きまして、イ こどもエコクラブについてもご紹介いたします。

環境プラザは、公益財団法人日本環境協会が実施するこどもエコクラブの札幌市内における事務局を担っており、こどもエコクラブへの登録団体及びこれから環境に関する活動を始めようとする団体への情報提供を行っています。

令和3年度から環境プラザが自ら運営するこどもエコクラブを立ち上げ、さっぽろあそエコ団として活動を行っています。市内の川や公園、山での自然体験活動4回を含む全9回を実施しており、11月26日には子どもたちの保護者に向けた活動発表を行いました。12月10日に行われたさっぽろこども環境コンテストにも出場し、活動発表を行いました。本事業は、毎年、多くの参加希望者が集まり、ニーズの高さがうかがえる事業であるため、今後も内容を刷新しながら継続して実施していく予定です。

続きまして、ウ 指導者向け研修です。

教員や保育者など子どもたちへ伝える立場の方を対象に、環境教育や環境保全活動をテーマとした講座等を実施しています。10月25日、26日に、札幌市内の児童会館職員100名に向けて、「職員が体験！環境教育プログラム！」を実践しました。環境プラザで実施している見学ツアー、展示解説やアクティビティーの体験を通して職員の環境保全の意識向上を目指すとともに、子どもたちによりよい環境教育プログラムを提供できるよう環境プラザの活用方法を紹介し、各児童会館での利用促進に努めました。研修後、3件の児童会館から見学ツアーの申込みを受けており、子どもたちへの直接的な環境教育の機会につながっております。

○事務局（石田環境教育担当係長） 続きまして、私から、エ 環境教育・子どもワークショップの開催についてご説明いたします。

これからの未来を担う子どもたちが、地球環境を意識して生活する心を育み、自発的な行動につながるきっかけになることを目指し、令和2年度から環境教育・子どもワークショップを開催しています。今年度は、令和5年1月21日及び28日にそれぞれ5か所ずつ、計10か所の児童会館に通う小学生を対象として開催予定です。また、今年度は、令和5年4月15日、16日に開催されますG7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合の開催記念事業として実施することとしました。

ワークショップでは、本部のメインファシリテーターから児童会館の各会場にオンラインでプログラムを配信し、各会場では、現地のファシリテーターの誘導により子どもたちが対面によりコミュニケーションを取るとともに、オンラインで各会場とも意見交換するなど、オンラインと対面をミックスして行います。あわせて、環境教育に興味があり、ワークショップ等のスキルを身につけたい高校生、大学生などの若い世代の人材育成にも同時に取り組むこととし、希望する若者を対象にファシリテーター等の養成研修会を実施し、子どもワークショップの運営スタッフの一員として活動してもらいます。

お手元の参考資料4には、昨年度のワークショップの風景や今年度のユースのファシリテーター、グラフィッカーの募集チラシをつけています。

次は、教育委員会からお願いいたします。

○事務局（阿部企画担当係長） オ 教員に向けた研修についてでございます。

教育委員会では、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、環境教育に役立つ施設の活用や環境教育の基礎、SDGs・ESDの基礎など環境に関する専門的研修を実施し、今年度も延べ70人以上の教員が受講する見込みとなっております。

○事務局（石田環境教育担当係長） ここまでで、（１）学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進、（２）「環境人材」の育成に関する事業についての説明は以上でございます。

○大沼会長 ご説明、ありがとうございました。

それでは、（１）（２）のどこからでも結構ですので、委員の皆様からご意見、ご不明な点などがありましたらお願いいたします。

○伊藤委員 この間から改めて環境副教材を拝見いたしました。実は、よくよく見れば、やっぱり子どもたちにとってすごくよい資料だなとつくづく思っています。新しくされているということですし、今、教育委員会から環境ウイークというものを設けているというお話もいただきました。

ただ、これは、6月25日の前後2週間ずつということでしたが、ちょっと思っていたのは、学期ごとに1回ずつこれをやるようにすれば、年3回はやれるなとも思ったりしていました。しかし、それも、「やれ」と言って強制するようなものではないなとも思うのです。そこで、例えば、環境局のほうで、今年はここを重点にしようというようなテーマがあったら、学期で1回ずつぐらい、5分から10分ぐらいのものでネットで流せるような番組というか、啓発するようなものを作れたら、もっと効果的に使えるのではないかなということをおもいました。

そんなことで、ぜひ、もっと何か「小学校は春も大変忙しくてそんなことにはなかなか取り組めないんだよ」という話も聞いていて、そうした事情は分かっているのですけれども、でも、「できない」のではなくて、何かやれる工夫をしていくことが大切なのではないかなと思ひましてお話しさせていただきました。

以上です。

○大沼会長 各学期に1回ずつぐらいやれたらいいなというお話だと思うのですが、これは、教育委員会のほうですか、環境局のほうですか、実現可能性などはいかがでしょう。

配付している冊子とは別に、何かビデオみたいなのを作成してというような話ですか。

○伊藤委員 冊子とは別にではなく、冊子の内容に沿ったもので、一度に全部はとても無理なので、やっぱり、ポイントを絞って、今年はここを重点にしたいことを三つぐらい決められるとよいのではないかと思います。そこで学年ごとに3か年計画ぐらいで見直しを立て、その重点を中心に話題を提供してみてもということです。たとえば、今年は1・2年生でやろう、来年は3・4年生でやろうと、3回やったら6年生までできるなど単純な

計算をしているのです。そんな形で、何かそういうものを作れたら、先生方も、「やれ」と言われてもなかなかとっつきづらいかもしれないので、こういうものを流すので、皆さん、「一斉にやりませんか」みたいな、こちらからアクションを起こしてくというスタイルにすれば、この資料がもっと活用されるのではないかなとちょっと考えてみたのです。

○大沼会長 こちらからアクションを起こす、そのこちらというのは、多分、環境局なのか、教育担当なのかということと、あと、アクションを起こされた側の学校の先生と、それぞれにご事情があると思うので、順番に、阿部さんはいかがですか、どのくらいできるとかできないとか、こういうことがネックになっているなどということがありましたらお願いします。

○事務局（阿部企画担当係長） 環境ウイークについてですが、今、6月25日前後ということですが、今年度は、6月25日を契機にして年間を通した取組となるように改訂しているところでございます。また、エコスクール宣言シートも、年間の検証サイクルといったものを回していけるように、また、各学校で取り組んでいる活動がSDGsの17の目標とどのように関連しているのかといったことで、今までやってきているものをもう一度見直して、そこに新たな価値を見だし、学校のほうで年間を通じて行って、そして、それを次年度にというように無理のない形で取り組めるように現在進めているところでございます。

以上です。

○大沼会長 あくまで6月の環境ウイークを契機としてということで、基本的には年間を通じてということですね。

現場の学校の先生はいかがですか。

○野崎委員 今お話を伺って、確かにそのほうがいいですね。私たちの仲間が、本当にエキスパートと言われる人たちが、毎年、毎年、見直して作っていて、非常にいいなど。ただ、以前もこの会でお話しさせていただいたかもしれませんが、私たちは、それぞれが勝手に授業をやるのではなくて、例えば、札幌市教育委員会のほうで私たちと一緒に作っていただいている手引書みたいなものがありまして、その中のページをふっと見ると、右側に、その本の何ページを使うとよいとか、必ず載せていただいています。

ただ、そちらも、例えば関心、意欲があったりだとか、実際に今までやっていていいなと思う人は使っていますが、伊藤委員がおっしゃるとおり、もっと裾野を広げたらというふうなお話だったので、私もどうしたらいいかなあと思っていたところです。

そのためには、今、阿部指導主事が言われたように、やっぱり環境ウイークですね。これで、例えばこの本を使おうとか、そういう声かけなり旗振りをちょっとしていただけると、市内の全部の小・中学校、高校もありますけれども、その本を開くことがまた増えてみたりするのかなと。

今日、エコライフレポートが回覧で回ってきて、私もまたこの時期だなというふうに思っていていたんですが、エコライフレポートなどを使って教室でその本を開いてみよう

か、そういう機会に私たちも声をかけながらやれるといいかなと、今、伊藤委員のお話を聞きながら、もっともっと使う方法を考えていきたいなというふうに思っていました。

以上です。

○大沼会長 石田さん、何かありますか。

○事務局（石田環境教育担当係長） 副教材のほうの評価をいただいて、どうもありがとうございます。

ワーキンググループの先生もお忙しい中の校正作業に協力的で、こちらとしても大変助かっております。

映像を作るなどのお話をいただきましたが、こちらとしても活用していただきたい気持ちはとても強くありますので、いただいたご意見を踏まえながら、教育委員会の方ともご相談しながら活用いただけるような仕組みを検討していきたいと思っております。

ご意見をありがとうございます。

○坂本委員 エコライフレポートの中で、北海道で取れた食材を食べるという項目があって、小学校だと7割ぐらい、中学生でも55%というのは、いずれも高い数字だなと思いましたが、これは、どんなふうに調査されているのでしょうか。小学校だと給食だったりするのかと思ったんですけども、これは、それぞれの生徒の個別の回答ですか。

では、生徒自身が北海道のものを食べていると自覚していれば、自覚というか、特にリサーチはしていないかもしれないけれども、食べていると思っているということですね。分かりました。ありがとうございます。

地産地消はCO<sub>2</sub>削減の手法の一つだと思うので、それ以外の意味でもぜひ学校と家庭で取り組んでほしいなと思います。

もう一つ質問なのですが、教員に向けた研修の中で、環境教育の基礎とかSDGs・ESDの基礎についての専門的研修を実施しというふうに書かれているのですが、これをもう少し詳しく教えていただけますか。

○事務局（阿部企画担当係長） 環境教育の基礎、それからSDGs・ESDの基礎ですけども、ワークショップ、カードゲームといった体験等を通してSDGsについて考えたり、また、ゲームを通しながらSDGsの目標達成へのアプローチを一緒に考えていく、そういう講座と聞いております。

○坂本委員 教育委員会のほうでそういう講座を主催して、各学校の先生方が参加されるのですか。

○事務局（阿部企画担当係長） はい。

○内山委員 私も教員に向けた研修のところをお聞きしたいのですが、70名という、結構いい数字というか、たくさん参加されていると思いますけれども、延べということは数回に分けてやっていらっしゃるのか、それから、SDGsとかESDの基礎といった環境系の研修会を独立してやられているのか、その辺をちょっとお聞きしたいなと思います。

○事務局（阿部企画担当係長） こちらは延べ人数ということでございますので、こちら

の講座に複数参加していると。例えば、SDGs・ESDの基礎は①と②がありますけれども、両方に参加しているとか、そういったことで人数については延べとなっております。

また、教員の研修ですけれども、様々なカテゴリーがありまして、その中の環境といったところで言いますと、こちらに挙げている講座を設定させていただいているところです。

○伊藤委員 今のことに関連してですが、70人というのは、僕は少ないと思うのですよね。というのは、札幌市の教員は小・中を合わせて7,000人ぐらいいますよね。8,000人ぐらいですか。でしたら、全体の1%未満ですよ。それも延べでというのは、僕は、逆にちょっと少な過ぎるのではないかなという感想を持っています。せめて10%ぐらいになっていかないと本当に浸透するのかなという気持ちがあって、でも、できれば半分ぐらいになってほしいなという思いがあります。

こう言ったら悪口になってしまうかもしれませんが、現場で、例えば、使っていない教室の電気をつけっ放しにしている先生もいないわけではないですよ。そういうところから改善していくには、やっぱり研修は必要だと思うのです。僕は、先生が手本を見せなければ子どもたちはやるわけがないという基本的な考えを持っているので、そういう意味では環境に対する教職員の研修というのはもっと多くあるべきだと思います。

○内山委員 おっしゃるとおりだと思います。

私も、道主催で似たような研修会をやっているのですけれども、人集めに非常に苦労しています。冒頭に、大沼会長から、先生方は毎月が師走だというようなご発言がありまして、かなりお忙しくてなかなか大変だなと思う中ですから、延べであっても70人も集まっているというのはすごいなというふうには感じました。ただ、かなり人数が重なっているということでは、伊藤委員のおっしゃること的を射ているのかなというふうに思います。

以上です。

○大沼会長 阿部さんから、この件について何か補足はありますか。

○事務局（阿部企画担当係長） いただいたご意見は持ち帰らせていただきまして、参加教員の増加でありますとか教員研修の在り方については担当の課としっかり検討させていただきたいと思います。

ありがとうございます。

○大沼会長 ほかの部分についてはいかがでしょうか。

○久保田委員 私はこの委員会に参加して3年ぐらいになるのですが、今はコロナ禍でいろんな活動が制約を受けている中で、そういう影響が非常に大きいと思うのです。しかしながら、環境教育の取組については、不断の努力がなされて様々な改善が行われているのではないかなと、いろんな資料を見ていて感じているところです。ですから、決まったことはその時点で最善であるかもしれませんが、決してそれでいいということではないので、これからも、きちんと改善点を見いだして、子どもたちのために環境教育の推進に当たってほしいなというふうに思っているところです。

それから、一つ、クリック募金の件で資料がありましたけれども、今、協力企業が7社あって、ワンクリック5円、月額上限2万円ですから、年間24万円ぐらいを企業が負担して下さっていて、7社なので上限は168万円になるのではないかなと思います。

ただ、これは、協力企業は7社で長期的には減少傾向にあり云々というふうになっていますが、以前はもうちょっとあったけれども、なかなか協力企業が集まらなくて、漸減傾向でだんだん少なくなっているという認識が正しいのかどうか。

また、これが40校程度の希望する小・中学校に教育教材とか野菜の苗等の寄贈に役立っているとなっていますけれども、これは、言い方が正しいかどうかは難しいんですけれども、協力企業がたくさん集まれば、教育教材の購入等にもっと役立てることができるのではないかなというふうに単純に思うのです。しかし、現状は、手を挙げて希望している学校がそのぐらいで、168万円何がしの金額でバランスが取れていると。こういう言い方はちょっと変かもしれませんが、協力企業の数と小・中学校で希望する教材の購入金額が大体釣り合っているので、このぐらいいいという認識なのか。そうではなくて、本当はもっとたくさんの協力企業に手を挙げていただいて、もっと活用したいと思っているのか、そこら辺はどうなのでしょう。

○事務局（石田環境教育担当係長） まず、協力企業の企業数ですけれども、数年前までは8社で、今は7社ですが、昔は大幅に多かったとか、十何社に至ったということはなく、8社、7社程度で推移しております。

協力企業数については、今後できるだけ啓発して、もう少し多く募集したいと思っています。今は需給のバランスが取れている状況ということですが、企業数が増えればもっといい教材を多くの学校に支援できるので、これからもっと増やして、それに見合った寄贈をしていきたいし、そのために啓発していきたいと思っています。

○大沼会長 スポンサー企業が増えたら、ニーズはそれなりにたくさんあるというご回答かと思います。

ほかにございますでしょうか。

○伊藤委員 エコライフレポートのことですが、春にお話ししたことが、夏にはもうタブレットを使ってというように、迅速になされたことは本当に感謝しております。皆さん、これで少しは楽になった部分があったのではないかなと思います。

ただ、僕は、81%が低いとは思わなくて、逆に80%まで行ったらすごいなと思っています。最初だったら本当はもっと低くてもよかったんだろうと思っています。今までの手法が高くて90%を超えているのは、教頭先生とかが音頭を取って全部まとめてやって下さっていたからそうになっていただけの話で、これが、個人になったら、ひよっとするともっと下がるかもしれない。でも、それはそれで、直接の結果だからいいのではないかという気も若干しているのです。そういう意味では、すごくよい結果だったのではないか、数的にはよかったのではないかと思っています。

○大沼会長 80%というのはそんなに悪い数字ではないということで、これは特に回答

をいただかなくて大丈夫ですね。

先ほど野崎委員からご提案いただいたように、エコライフレポートに教材の何ページを読んでもどこかに書き込んでおくといいのかもしれないとちょっと思いました。

○野崎委員 いや、それをやると、調べたりするのに先生方は結構大変かなと思ったりもしています。単純に言って、今回の夏の場合、エコライフレポートが少なかったのは、最近、私たち現場ではグーグルフォームのアンケートがすごく多いんですよ。めちゃくちゃ多いんです。今、阿部先生が頭を下げてしまいましたけれども、グーグルフォームは集計しやすいですし、アンケートも作りやすいところがあるので、小学校でしたら1年生から6年生まで全員参加というアンケートが短い期間にばんばん来ているような状況です。ですから、たくさんのグーグルフォームのアンケートの中で、いかにこれをというふうに考えるのです。

今回の夏のときにはエコライフレポートだけだったのですが、こちらのほうは、多分、やっという教室と、授業の前の朝活動だとか、あるいは何かの時間の中で、みんなと一緒に確認しながらやろうとか、やっぱりいろんなパターンの教室があったんだと思うし、多分、今回は不得手な先生もきつ々しいと思うのです。ただ、私たちもグーグルフォームにはめちゃくちゃ慣れましたので、教室の中でみんなを確認しながら先生と一緒にやってくださいと、その一言があるだけでも、伊藤委員は80%は高いと言われましたが、恐らく、みんな、できるというように感じています。

一方、さっき言ったのですが、例えば、この辺りは地球と仲よくしているのを見てねとか、その程度でもいいんじゃないかと。何ページのどこというふうに事細かくやると、多分、寝られない人とか、帰れない人が出てくるのではないかなと、今そんな危惧も感じたのでちょっとお話をさせていただきました。

○大沼会長 何ページとかと事細かく書くと、また現場の先生が家に帰れなくなるというのはよく分かりますし、アンケート疲れというのも非常によく分かります。これでもかというぐらい、毎日、アンケートに答えさせられていて、我々も評価疲れというのがあるのですが、疲弊しないように、でも、うまく回せるようにという現場でも工夫をしていただいているということですので、教育委員会あるいは環境局のほうでも背中を押していただければということかと思えます。

これで、環境の副教材のこと、クリック募金のこと、エコライフレポートのことは議論していただきましたね。

○石澤副会長 校外学習バスの件が何もお話に上がっていませんでしたが、私が小学校の現場にいたときには、とてもありがたいバスの貸出しだったと記憶しております。

ただ、予算の関係が何かあるのかなと思いつつも、その貸出し期間が短かったのです。今回も10月1日から11月30日の使用期間となっていますが、どちらかというところ、環境の学習、水道の学習等の時期とは、ずれたような期間の募集となっています。もう少し、活用できる期間が広がると、もっといろいろな学校がバス貸出しにぜひ応募したいと思う

のではないかなと思います。

また、新型コロナウイルス感染症対策ということは大きな問題ではありますが、通常のバスでは隣同士で座っている状況が生まれてきていますし、バスの中も5分間で換気されることが大きく取り上げられています。ですから、隣同士でも座れることが札幌市教育委員会が認めれば、乗車人数も倍となりますので、そういう方向で話しを進めていただくと、たくさんの学校がより活用できるのではないかなと思った次第です。

○大沼会長 期間についてのご質問があったと思いますので、事務局からお願いします。

○事務局（石田環境教育担当係長） ご意見をありがとうございます。

今年のバスの貸出しについてですが、やっぱり、夏場が観光のピークで、バス会社のほうでは観光業の収入のほうも必要ですから、そちらのバス利用が多くて、なかなか夏場から貸出しをとというのは難しいためにハイシーズンを外しています。また、冬についても、冬どとなかなか環境施設に行きづらいとか利用が少ないのではないかなということを考えて、今年は10月から11月の2か月間に設定させていただいております。

来年度は、できるだけバス会社ともお話をし、もう少し幅広い期間を設定できるように検討していきたいと思います。

○大沼会長 あと、5ページの出前講座の件、あるいは、6ページに行って、全国の取組については先ほど言及していただきましたが、(2)の「環境人材」の育成で環境プラザの事業の検討で、皆様から何かご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

環境プラザの幾つかの事業は、コロナ禍前の数字に大分戻ってきているということもあるので、この調子で戻って、さらに上回るといいなというところでしょうか。数字だけが全てではなくて、もちろん中身も充実しているかなと思っているところです。

特にないようでしたら、次に、後半の(3)(4)のご説明も事務局からいただければと思います。

○事務局（石田環境教育担当係長） それでは、(3)環境教育・環境学習の場と機会の充実について、各事業のご説明をさせていただきます。

環境プラザさんからお願いします。

○札幌市環境プラザ（宮西主任） ア 学習支援等についてご説明いたします。

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向けの環境教育プログラムの実施、環境活動に関する教材の貸出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っております。毎月第2土曜日には、「あそびバ！エコプラザ」としてゲームや紙芝居、工作体験など、環境学習の機会提供を行っております。

学校のSDGsへの関心の高まりから、施設見学については、今年度、既に市外の中学校から環境学習やSDGsをテーマとした依頼を新規で数件いただいております。SDGsと環境問題の関係を明確にした展示解説や、札幌市独自の取組、環境プラザの取組についてSDGsを絡めて紹介いたしました。

学校のニーズとしましては、SDGsと関連した取組の具体例を知りたいと希望すると

ころが多かったため、環境プラザと運営元を同じくし、ともにエルプラザにある札幌市市民活動サポートセンターや札幌市男女共同参画センターとも協力し、各施設で行っている取組はどのような関連があるのかというところを見学者に向けて紹介しました。エルプラザの独自性を生かし、様々な分野の取組についてご紹介をしております。今後も、このような希望、ニーズが多くあることが予想されるため、プログラムの新規開発ですとかアクティビティーの開発を行っていく予定でおります。

続きまして、イ 各種講座等の実施です。

毎年開催している幼児、親子向けの自然遊び体験事業を、今年度も札幌市定山溪自然の村と連携して実施しております。宿泊編と日帰り編を実施しており、10月16日の秋の日帰り編では、北海道大学をフィールドに、秋の自然物を使った様々な遊びや、集めた木の実や葉っぱを使った冠作りを行いました。11月6日、7日の宿泊編では、定山溪自然の村の自然豊かなフィールドの中で、自然遊びやクッキング、キャンプファイヤーを行い、全身で自然を体感するプログラムの提供を行っております。冬の自然体験遊びの事業も予定しております。1月22日、23日に定山溪自然の村で宿泊編、2月12日に北海道大学で日帰り編の実施を予定しております。

○事務局（石田環境教育担当係長） 続きまして、10ページ、ウ さっぽろこども環境コンテスト2022についてご説明させていただきます。

小・中学生が、日頃、環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテストとして、平成20年度から実施しております。活動の発表を通じて、周囲の子どもたちのほか、大人たちにも活動の輪を広げていくことを目的としています。これまでのステージ発表に代え、札幌市環境プラザを本部とし、各発表団体の会場をリモートでつなぎ、本部の司会進行の下、オンライン形式で各団体に発表していただく形式として実施し、発表の様子は、後日、審査結果とともに札幌市ホームページに公開する予定です。

また、今年度は、令和5年4月15日、16日に開催されますG7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合の開催記念事業として実施することとしました。

来年度は、なるべく多くの団体が参加できるような形式での開催の検討を進めてまいります。

下の表は、今年度の参加団体と審査員の一覧です。推進委員の大沼会長と坂本委員にも審査員をしていただきました。ありがとうございました。

参考資料5には、4日前にちょうど今年度のコンテストがあったのですが、このコンテストの様子を一部紹介しております。

次に、（4）普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押しについてです。

環境プラザさんからお願いします。

○札幌市環境プラザ（宮西主任） ア 環境プラザホームページ等についてご説明いたします。

環境プラザでは、講師派遣や貸出し教材、事業などについて、ホームページで情報提供

を行っています。また、フェイスブックへの投稿や、「エコチャン!!—環境プラザ YouTube チャンネル」へ作成した動画をアップロードするといった情報発信も昨年度より継続して実施をしております。加えて、今年度からは、インスタグラムを開設し、写真や動画を多用した投稿をすることでユース世代への情報発信強化を目指しております。

以下に、ホームページのアクセス件数について表にまとめておりますので、ご参照ください。

○事務局（石田環境教育担当係長） 続きまして、イ 環境広場さっぽろ2022の開催です。

これは、子どもたちを主たる対象に、環境教育を目的とした未来を思う総合環境イベントです。平成30年度、令和元年度は、札幌ドームを会場に開催しました。令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って札幌ドームでの開催を見送り、札幌ドームをモデルとした仮想空間を会場とするオンラインイベントとして開催しました。今年度は、環境広場さっぽろ2022を令和4年7月30日土曜日、31日日曜日の日程で3年ぶりに札幌ドームで開催しました。また、同じくして、7月30日から8月5日までバーチャル会場ということで開催しております。

参考資料6には、実施報告書の一部を抜粋したものでございますが、来場者アンケートと各イベントスペースのご紹介を載せました。

以上になります。

次は、環境プラザさんからお願いします。

○札幌市環境プラザ（宮西主任） ウ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組みについてご説明いたします。

環境中間支援会議・北海道は、行政や地域など様々な組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う会議です。環境省北海道環境パートナーシップオフィス、通称EPO北海道、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ、NPO法人北海道市民環境ネットワーク、通称きたネットが連携して、北海道内における様々な環境活動の支援を行ってきております。また、環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして定期的に開催される会議に参加しております。

なお、ホームページ環境☆ナビ北海道において、環境に関するイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報などを配信しています。

○事務局（石田環境教育担当係長） ここで、内山委員から環境☆ナビ北海道のホームページの紹介がございますので、よろしく申し上げます。

○内山委員 参考資料の7をご覧ください。

こちらは、今ご紹介がありました環境☆ナビ北海道のホームページのトップページです。上のほうに札幌市環境プラザさんの写真がありますが、これは、環境プラザさんに気を遣ったわけではなくて、ここがスライドして4団体の写真が映るようになっています。実は、今年の5月にリニューアルをしまして、それまでスマホやタブレットで見られるような形

ではなかったものですから、それが見られるレスポンス対応をしたのと、若干、ウイルス等へのリスクに対応するように変えてあります。

簡単にご説明しますと、緑色のバーの上から2番目のところに新着情報とありますが、情報が到着しましたらここに入ります。それから、イベントカレンダーというのは、直近の情報が五つほど載りまして、右上に小さくカレンダーと書いてあるところをクリックしていただくと、月ごと、週ごと、日にちごとの情報を見ることができます。

それから、その下の公募・助成金情報については、人材であるとか、助成金であるとか、パブコメ、各種募集情報がここに載っております。

それから、お知らせについては、その上の二つに分類できないような展示であるとかキャンペーンであるとか、そういった情報を載せることができるようになっていまして、どなたでも利用することができます。基本的には、これまでいろんなところの情報が散らばっていたものをワンストップで見られるようになっていまして、北海道内では情報が一番集まっているかなと思っています。

最後に、一番上に、環境☆ナビ北海道からのオススメ情報とあります。こちらは、我々4団体、環境省、北海道、札幌市のお勧め情報があればここに載せることもできますので、ぜひ、こちらもご利用いただけたらと思います。

あと、大変残念ですけれども、今日の会議資料11ページの環境中間支援会議・北海道の説明の中にあるきたネットさんが来年で解散ということになっていまして、来年度以降、我々は残された3団体で運営していく予定です。

きたネットさんについては、正確には事業承継できる団体があれば続いていくのですけれども、今年度、来年3月までになければそのまま解散手続きに入ることになります。

時間をいただいております。ご説明させていただきました。

○事務局（石田環境教育担当係長） 続きまして、最後の項目ですが、資料2の12ページ、エ 「令和4年度環境教育・環境学習ガイド」の発行についてです。

お手元に参考資料8としてパンフレットをご用意しておりますので、併せてご覧ください。

札幌市環境教育・環境学習基本方針に基づき、環境問題の理解促進や環境保全行動の推進に向けて、札幌市の各部局が行っている取組をまとめた環境教育・環境学習ガイドを毎年度発行しています。学校や市民への広報、情報提供を行い、各取組への市民参加を促進し、環境教育・環境学習の一層の推進を図っていきます。

あわせて、札幌市各部局の環境教育・環境学習に対する意識を高め、基本方針の趣旨に沿った事業展開を促していきます。

ここまでで、（3）環境教育・環境学習の場と機会の充実、（4）普及啓発のための情報の発信・広報の行動の後押しについての資料説明は以上でございます。

○大沼会長 ご説明、ありがとうございました。

それでは、ただいま（3）（4）、それから補足資料の説明もしていただきましたが、

これらにつきましてご質問、ご意見、感想等がございましたらお願いいたします。

○伊藤委員 質問ですが、ウの「さっぽろ子ども環境コンテスト2022」のところでは、

僕も考えていたのですけれども、正直、この発表団体があまり多くないですね。事務局では、これは何が原因だというふうに考えておられるのでしょうか。

○大沼会長 事務局のほうで、何かありましたらお願いいたします。

○事務局（石田環境教育担当係長） 目標は10団体ぐらい参加していただきたいと考えて募集しているのですけれども、今年度に関しては、小学生の部が1団体と少なかったなどこちらでも思っております。

学校のお話によると、開催日が土曜日ということで、まして、会場は各団体でご用意していただく形としたため、土曜日に学校を開けるのが現状として厳しいというお声をいただいた学校もありますので、そういった点で参加団体がちょっと少なかったのかなと思っております。一方で、今までは会場に来て一堂に会してやっていたが、引率して1か所に連れてきて発表するというのも結構大変だというお声もいただいているので、来年以降は多くの団体が参加できるような形の開催、オンラインと現地を併用する形など、アンケートで参加団体にご意見を伺ったりして検討していきたいと思っております。

○大沼会長 ほかの方から何かございませんか。

○村形委員 この資料を見て、たくさんのをやっているのだなとすごく思いましたが、保護者としては、周知される率がちょっと低いのかなという部分があります。正直に言うと、私が、今、委員としてここに来て、こういうものがあるのだと知ったものもあるのですよね。やっぱり、子どもは学校でエコだったり環境の勉強をしても、家庭に帰ってきて、お母さんに、今日は環境の勉強をしたよとか、そういうことを伝えるような授業の面白さがあつたりとか、そういうふうに伝えることができていない分、保護者に広まっていなくて、何かに参加するとか見るということが少ないのかなと思うのです。

周知するという事は本当に物すごく大変なことで、たくさんの方が子どもたちの勉強のために考えてくださっているのはすごくありがたいことですが、環境というのはすごく身近なことですし、日頃からできることなので、本当に、勉強するのではなく、保護者も子どもと一緒に、みんなが勉強しなくてももっともっとそういうふうに見えるような状況になったらいいのかなと思いました。

○大沼会長 せっかくこれだけのことをやっているのに届かないというのは、時々、この委員会が出てくる話で、いわゆるリーチアウトのことだと思うのですが、特に今回は親まで届くみたいな内容なので、事務局、教育委員会、あるいは環境プラザさんから、何かありましたらお答えいただけるとありがたいと思います。

○札幌市環境プラザ（宮西主任） 保護者と一緒に巻き込んだ活動ということですが、先ほどの子どもエコクラブで私たちが主催しているあそエコ団という活動では、保護者も一緒に参加できる会を今年度から設けました。お子さんが楽しいというのももちろん大切ですが、お子さんに機会を提供できる一番の身近な方は保護者なので、一緒に活動に参加し

ていただいて同じものを子どもと一緒に見てもらう、体験してもらうということを通して、家庭でも環境保全、環境に関する会話が生まれるようにと心がけて実施したところであります。

また、子どもたちの発表の場について、オンラインではなく、実会場で設けることで、子どもたちがこういう活動してこういう成果を得たんだというところを子どもたちから直接聞いて知ってもらう機会を設けて保護者に周知するというところも心がけて実施してまいりました。

○事務局（東館環境政策課長） ご指摘のとおり、周知を広くというのは、我々としてもそれが非常に大事なことだと分かりつつ、いろいろやっではいるのですが、やはり、外から見ると、その広がりはまだ足りないのではないかというのが実態だと思うのですよね。

私どもができる事柄として、学校を通して市内の児童生徒全員に配付されているエコチルなんかは、お子さんがご家庭に持って帰られるので親御さんの目にも触れやすいのではないかと。また、例えば、今日の報告の中にもありました子どもワークショップなんかも、昨年度はその開催概要を、参加したお子さんたちだけではなくて、より多くのお子さんとか親御さんにもこんな取組をしているのだと見ていただけるように、エコチルの紙面にも情報を掲載させていただくなどしております。

いろいろ方策は講じてはいるのですが、まだまだ足りないという中で、やはり、いろんなイベントなんかも通して、こういった環境教育の取組をより多くの親御さんの目にも触れるようにしていかなければいけないかなと思っております。先ほどお話もありました来年の春に開かれますG7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合に向けては、まだ検討段階ですけれども、市内で環境に関するいろんな展示とかイベントみたいなものを企画して実施していかなければと思っています。

そういった中でも、先ほどご報告した子どもコンテストの状況ですとか、あるいは、これから行う子どもワークショップとか、先ほどご指摘のあったクリック募金のPRといったことも、多くの方が見ていただけるこうしたイベントの機会により強く発信していければと思っていますので、今日のご意見を踏まえて、そういったところをいろいろ考えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○大沼会長 親子で会話するのはすごく難しいなというのは、すごく実感しています。子どもが小さいうちは親子でイベントに参加できたんですね。小学生ぐらいのうちは、エコチルを持ってくると、持ってきたねって言って会話できるのですけれども、中学になると、エコチルを「はい」って渡して、僕が何か言おうとすると、ささっと逃げちゃうのです。我が家の恥をさらしてどうするのだという話ですが、家庭での環境の会話も子どもが大きくなるにつれて厳しくなるなと思って、その辺は中学生、高校生の親御さんはどうしているのだろうか、大学生なんかはもっとそうだろうなと思うので、ちょっと聞かせていただくと非常にうれしいなと思っています。

西塚委員、まだご発言をいただいていないので、今のことでいいし、ほかのところ

も結構ですので、何かお願いいたします。

○西塚委員 環境広場についての評価を聞かせていただきたいと思っています。

微力ながら弊社も、環境学習を少しでもサポートできたらと毎年出展させていただいておりますけれども、今年は1万5,000人をちょっと超えたところと聞いております。コロナ禍が重なったこともあり、非常にディスタンスは取りやすかったです会場としては奥のほうは少し寂しい感じもあったように思います。一方、手前にあった札幌市さんや関係団体の方々の工作教室は非常に盛り上がっていて、凄いな、羨ましいなと思いつつ遠くから見ておりました。環境広場は非常にいいイベントですし、成長、発展させていくために私たちとしてもできることをしっかりやっていきたいと思っておりますけれども、札幌市さんのイベント全体の評価を率直にお聞かせいただけたらなと思います。

○大沼会長 環境広場についてということで、事務局のほうからお願いいたします。

○事務局（東館環境政策課長） いつもご協力をいただき、本当にありがとうございます。

先ほども報告がありましたとおり、環境広場は3年ぶりにドームでリアル開催できたところです。7月末の開催でしたが、直前ぐらいにかなり新型コロナウイルス感染者が増えてきて、本当に開催できるかどうか、我々もはらはらしながら何とか開催に漕ぎ着けたという感じです。

来場者数が1万5,000人程度ということで、聞くところによりますと、ちょうど同じ開催時期に、やはりお子様の、それも環境の部分でオーバーラップするようなほかのイベントも市内の別の会場でありまして、たまたま日程が重なっていたみたいの情報も耳にしたりしましたが、若干、分散してしまったところもあるのかなと思っています。

また、ここ2年間ぐらい開催されていなかったのも、我々としても事前にかなり周知したつもりではいるのですが、3年ぶりということになると、今年もやらないのかみたいな感じで、開催を知らなかったご家庭の方もいらっしゃるのかなと思いました。

おっしゃるとおり、平成30年度・令和元年度の開催ときには2万人を超える来場者だったので、若干少なかったかなと思っております。一方で、今年は、ここ2年間のコロナ禍の影響によりリアルでお子さんたちがいろいろと楽しめる場がほとんどなかった中で、何とかコロナ禍の合間を縫ってこういった場を提供できたという部分では、意義は結構大きかったのではないかなと思っています。

今後も、企業の皆様のご協力とお力添えをいただいて、やはり、市内のお子さんたち、親御さんたちも楽しみにしていただいている方もかなり多いイベントですので、我々としては何とか続けていきたいなと思っています。

以上です。

○西塚委員 環境広場は一大イベントで、札幌市さんも、コロナ禍の中、オンラインコンテンツをハイブリッドで組み合わせながらご努力されていることも十分承知しております。環境教育の一層の推進に向けて、このイベントをさらに成長、発展させていけるように微力ながらいろいろ考えていきたいと思っております。

もう一つ、先ほどのところで発言をすればよかったのですが、校外学習型のバスの見学先としてのLNGの基地についてです。これは弊社の施設ですけれども、施設自体、エネルギーの安定供給のための重要施設になっている関係もあり、コロナの感染拡大状況を踏まえ、3年間、見学の受入れを中止させていただいております。教育現場の方々には大変ご迷惑をおかけして心苦しく思っております。

今後は社会の状況に鑑みながらとなりますけれども、やっぱり施設見学はリアルが教育にとってよいと思っておりますので、少しずつでも見学できる方法について検討しているところです。環境教育を少しでもサポートできるような仕組みをつくっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○大沼会長 これは、特に事務局からのお答えは要らないと思います。北ガスさんにも非常にご尽力いただいております。本当に、バスの貸出しに限らず、小学生の施設見学は本当に大事だと思いますので、そろり、そろりとはあると思いますけれども、ぜひ、見学を再開できる日を心待ちにしております。

能登委員はいかがですか。

○能登委員 皆さんのお話を伺っての感想になるかなと思うのですが、ここ2年、3年ですか、学校現場ではコロナ禍ということでいろんな施設に行くことや外部から講師をお招きするといったことが本当にできなくて、なかなか困ったものだなというふうに思っていました。

しかし、今、皆さんのお話を聞いて、利用者数は少なくなっているけれども、しっかりといろんなことを続けていただいている、例えば施設見学もしかり、人材派遣もしかりですけれども、続けていただいていることが非常にありがたいなというふうに思っております。今、コロナも落ち着いてきたところかなというふうに思っているのですけれども、少しずつ開かれているなという感触があって、これからそういった施設を活用したり人材を派遣していただいたりということが増えていくのではないかなというふうに思っております。そういったところで、これからいろいろと活用させていただいたら本当にありがたいなというふうに思っています。

それから、本校の取組でいくと、多分、ほかの学校も同じかと思うのですが、総合的な学習の時間などでは、環境をテーマにいろんな取組をしている学校がたくさんあると思うのですよね。本校でいえば、4年生では、食育に関することや、給食の残量を調べてそれを減らしましょうといったこととか、また、好き嫌いをなくしましょうねみたいな、ほかの学年へ呼びかける取組もあったりして、そういった部分で家庭ともつながるような学習ができる時間かなというふうにも思っております。5年生では、今年度はSDGsについて取り組んでおりまして、SDGsってというところから始まり、様々なことを調べて、周りのお店やいろんな施設ではどんな取組をしているのかなと。先ほど環境プラザのほうからありましたが、施設で行っている取組がSDGsとどんな関係があるのかなというようなところも、学校でも同じようにいろんな施設と関係をつ結びながら取り組んでいまして、

近くに環境プラザがあればすぐにでも行きたいなというふうに思うのですけれども、距離もあってなかなか行けないでいますが、学校でもそういった取組をしているところです。

学校現場でも、環境というところはこれからも本当に大事にしていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○大沼会長 今、聞いていて、やっぱり、総合学習というのは非常に大事なところですし、いろいろご活用いただいているところは多分もっともっとあるかと思います。ぜひ、事務局もしくは教育委員会さんのほうでも、総合学習のほうではこんな取組をしているよということの周知と、それから、環境教育・環境学習の取組との結びつきみたいなものをもう少し考える余地があるのかなとも思いました。今すぐというよりは、できるところでうまくつないでいただけるといいかなというふうに思いました。

○伊藤委員 今いろいろお話も出ておまして、環境教育という点では、私も、「ポイ捨てをやめよう」というような、本当に単純なことが啓発活動の原点かなというふうに考えております。

そういう意味では、もちろん子どもたちにもいろいろやっていただいている、こんなにやっているのだなと、僕はやっていると思いますよ。物すごくやっていると思うのです。

ただ、この広がりがないかないということは何なのだろうと、今、考えていました。多分、来年、G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合があるから、札幌市の広報でもきっと特集を組んだりされるのではないかなと思うのですが、そういう広報活動というのがもうちょっと必要なかなということと、もっと市民や企業を巻き込んだ形のものであった方がいいのではないかなという気もちょっとしています。

例えば、フードロスをなくす工夫のコンテストみたいなことで市民に実践を募集したり、企業がやっていることを紹介したりとか、周りでこんなことをやっているのだよというのが市民にも広く伝わると、「こんなことをやっているんだって」と子どもたちにも言えるようになって親子の会話にもつながっていくのではないかなという気がします。

例えば、食品ロスでいえば、最近、形の悪いものをお弁当に使うという業者があったり、予約制を取り入れているところが出てきたり、ロスを少なくするのに企業もいろんな工夫をされているみたいです。しかし、そういう広報的なものは案外少ないのではないかなと感じています。そんなことも含めて、もっと市民とか企業を巻き込むことが、広く言えば裾野を広げていくことにつながるのではないかなとちょっと思ったので、お話をさせていただきました。

○坂本委員 今、伊藤委員がおっしゃったように、環境教育は、子どもとか学校というエリアだけではなくて、やっぱりクロスセクター、クロスジェネレーションの活動になっていかなければいけないと思います。

もう一つの視点として、今日の資料とか議案に対する直接の意見ということではなく、考え方として持っていたいなと思うのが、生活環境、それから地域環境、そして地球の環境というのがつながっているということ、例えば、都市の人たちが食べているものが農山

村で作られているとか、ごみだったり、都市から出ていく排出物がほかの自然環境に影響を与えるというのは、やはり、自分たちの中だけとか札幌市の中だけで完結しているというふうに考えたらそういう視点が生まれてこなくなっちゃうと思うのですよね。

今日、私は唯一の地方からの参加者なので、地方の視点で発言させていただきたいと思いますが、例えば、今、都会の人たちの使うエネルギーを地方で再生可能エネルギーをとということであちこちで建設の動きがありますけれども、地方的には、自分たちの自然環境や健康を害してお金はみんな大都市に行っちゃうから何もメリットがないではないかということで、最近、私たちの周りでも反対運動が非常に多いんですね。私は、オールジャパンでとかオール地球で必要なものなのであれば仕方がないというふうに判断するほうですけど、やっぱり、自分たちのメリットは何もないというふうに思われちゃうと、そうなくなっていってしまう。その辺は、都市と農山村、地方都市との支え合いという関係がないと、農業にしてもエネルギーにしても、どちらかが幸せになって、どちらかが不幸になるという話ではないと思うので、そういう視点は、小学生に理解しろと言うのはちょっと難しいかもしれませんが、少なくとも指導する私たちのほうでは視点として持っているべきではないかなと思います。

参考までにとということで、特に答えをいただかなくて結構です。

○大沼会長 非常にしみ入るお話かなと思いました。私自身もそういうことをやっていますが、都市と地方、食の消費と生産地、お金、エネルギーもまさにそうだと思います。都市の人たちが、どういうふうに自分たちの消費やインフラが成り立っているのかということに少し思いをはせるような、そういう機会を増やせるといいなということ非常にうまく言っていたかかなと思います。

やっぱり、札幌市は北海道の中では圧倒的な大都市になると思うので、多分、札幌市としても道や各市町村と一緒にいろんなことを取り組まれているような気がします、札幌市だけではないよみたいなことで何か補足がございませうか。

○事務局（東館環境政策課長） ご指摘いただいた視点ですが、やはり、札幌市は北海道の中でエネルギーの一大消費地ですので、エネルギーの部分での地方との連携は、地方でつくられたエネルギーをただ札幌市でたくさん使わせてもらうだけではなくて、お互いにウィン・ウィンの関係をうまくつくれるような仕組みを考えていかなければいけないなど、今、札幌市としても大きな課題として議論しているところですので、今日のお話も踏まえて、そういった部分をしっかりやっていきたいなと思っております。

以上です。

○大沼会長 ありがとうございます。

○久保田委員 皆さんのお話を聞いていて、私も共通して思うところが幾つかありました。一番感じているのは、すばらしいいろんな環境教育の取組を進めているのだけれども、一言で言えば、その広がりがちょっと弱いと。さっき周知の方法がどうかということがございましたが、これは、事務局の方自身も本当にどういうふうにしたらいいのだろうと考え

ていらっしゃるし、きっと悩ましい課題だというふうに思うのですけれども、やはり、それが一番の大きな課題なのではないかなと感じています。それをどういうふうに進めていくのが本当にいいのかというのは、なかなか答えは簡単ではなくて、本当に難しいです。でも、やらなければいけない今日的な緊急の課題だと皆さんも思っていて、本当にそれが非常に大きなテーマなんではないかなというふうに思います。

さっき、幾つか、それに補足して教育委員会から先生方の研修の件が冒頭に出ましたけれども、私が思うのは、振り返ってみると、札幌市立の小・中・高等学校、特別支援学校等で、札幌らしい特色ある学校教育の推進ということが制定されて、平成30年度にそれがリニューアルされて今に続いているのですね。その中で、三つの課題ということで、皆さんもご存じでしょうけれども、雪、環境、読書が3本柱になっていて、いまだに続いています。これは、生徒だけではなくて、教える先生方もそうですが、その中で環境というのは非常に大きな柱になっているのですよね。ですので、もう一回、改めてそのことをきちんと考えていただいて取組を進めていかなければいけないなというふうに思うのですね。

先生方というのは、何というか、専門的な研修については非常に熱心に取り組まれると思うのですが、そのほかに、例えば、職責に応じた研修とか、ライフステージの研修とか、今日的課題の研修とか、大きなくりのジャンルがいろいろあると思いますけれども、環境というのは、なかなか取り組むのが後回しになってしまうというか、やっぱりそういうところがあるのではないかなとちょっと思うものですから、改めて、そういうところの働きかけを強めていくことは必要なんではないかなというふうに思います。

それから、もう一つ、エコクリック募金の話でちょっと質問しましたけれども、あれについてもちょっと思うところがあります。例えば、新聞なんかによく掲載されるのですけれども、札幌市が企業と連携するときの取組として市民の目に一番触れるのは、災害なんかについての協定を結びました、パートナーシップを結びましたみたいなことがよく広報されます。しかし、環境について、企業と連携して取組を進めますよみたいなことは目にすることは滅多にないですね。

これも、課題が大きくて、長期的な課題ではあるのだけれども、近々の課題かというのと、やっぱり、それは後になってしまうので取組がちょっと遅れるのではないかなというふうに思います。そういった点でも、さらに企業に協力をお願いして働きかけを起こしていくことが本当に大事なのではないかなと思います。

○大沼会長 どうやって広報していくのか、どうやっていろんな取組をしていただくのかというのは、事務局としても非常に悩んでいらっしゃいますし、我々としても何とか知恵を出してと、この委員会でも何度か議論になったところかなと思います。

あと、職責別の研修ですが、先生方は、これは絶対に受けなければいけないという研修があると、環境が後回しになってしまうのではないかというお話もありましたので、この辺りについて、野崎委員、お願いできますか。

○野崎委員 この委員会の中で一番長いので、お話しします。

当然、初任者研修、2年次研修、5年、あとは、今は10年と言わないで、長く勤めた先生の研修とか、いろんな研修があるので、その中に必修があったり、選択する研修があったり、いろいろな場合があります。そういう中で、たくさんの時間で研修を受けるのであれば環境が入る場合もあるけれども。今のお話をいろいろ伺うと、私たちはすごく期待されているなどこの会議に来ていつも思うのです。期待されて、期待に応えなければならぬと思うのですが、今のリクエストとしては、やっぱり環境の部分をもっと厚くしたらどうだろうかということ、これは、教育委員会をはじめ、研修に関わるところで検討していただけるといいのかな、持ち帰っていただくことかなと思います。

一方、今、私は、教頭という立場で、いろんな職員と面と向かう立場で話をすると、学校というのは意外と環境教育をやっているのですよ。意外とというか、結構やっています。皆さんが思っているより、子どもたちはいろんなことを知っているし、学んでいます。だから、そこもアピールしなければいけないだろうと。

その部分は、例えば、やり方としては各学校のホームページに載せるとか、あるいは、PTAの村形委員がおっしゃっていたように、一番は家庭で話すということだと、そのためには面白い授業しなければ駄目だな、痛いなど思いながら聞いていました。面白い授業をして家庭で話題にできる、やっぱり、そういうところを地道に取り組んでいかなければいけないなどということも思いました。

ただ、これも、環境が大切だとか、あと、私はほかにも札幌市の防災委員をやったり、過去には税金のほうをやったりとか、いろんなことをやらせていただく機会があって、そのたびにこれが大切だというのがいっぱいあって、それが現場にばーっと降りてくるとなかなか厳しいんですよ。授業はやらなければいけない中で、実は、うちの学校は今週も16クラスのうち五つを学級閉鎖しているのです。そうすると、時数をどうするか、そういうぎりぎりのところでいろんなことを考えながら取捨選択してバランスを取っているところです。だけど、大切なのは大切だし、やっていますので、この辺りは安心していただければいいかなって思って聞きました。

最後は愚痴みたいになりました。ごめんなさい。

環境教育は意外とやっている、もしかしたら、保護者にやっていることを伝えたり、保護者にもその意識を伝えていく、こういうすべがこの会議のどこかでヒントになるものがあるといいなと思いながら話を聞かせていただきました。

以上です。

○大沼会長 能登委員が隣で大きくうなずいていたのですが、その勢いで、何か言いたいことがあればお願いします。

○能登委員 今、野崎委員の言ったとおりだなと。環境というのは、本当は学校現場ではとても取り組みやすいもので、取組も非常に多いのです。ただ、それが周知されていないというか、広がっていないというのは、やっぱり、学校から保護者やほかのところへの発信がもっとあればいいのかなと思いつつ、そういったところも頑張らなければいけないな

と、今のお話を聞いていて思ったところでした。

○大沼会長 隣でも、もう一人、大きくうなずいておられた石澤副会長、お願いします。

○石澤副会長 9月21日にG7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合があることがホームページに出ていましたので、最近、決定し、発信されたことだと思います。やはり、この会議が札幌で開催される価値をアピールすることがポイントだと感じました。

札幌市は、2008年に「環境首都・札幌」と銘打ってから、これまでに様々な活動や取組を推進してきました。教育現場も、自立した札幌人を目指す人間像とし、その目標達成のための一つとして環境が重点され、環境教育に力を入れて行っています。

このような様々な取組や成果が認められことが、G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合が札幌で行われることになった一つの要因だと思います。そう考えると、環境にかかわるこの会議を札幌市が招致できたことを誇りと考えていいのではないのでしょうか。

教育現場、行政、それから関係団体の皆さんの取組が認められた結果として、この会議が札幌市で開催されるという事実を、子どもたち、保護者、それから札幌市民にアピールしながら、この誇りを一つの力として活用するべきなのではないかなと思います。

札幌市教育委員会には、G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合が札幌で行われることになった経緯や会議の内容を教材化することを望みます。そうすることにより、子どもたちが、「そんなすばらしい会議が僕たちの街で行われるのなら、今までやってきたことが間違っていない。改めて環境って何だろうか。もう一歩進めるとしたら何ができるかな。」と、見詰める機会になることでしょう。

また、子どもたちが環境に目を向けるよう、学ぶ機会を支えてくださっている関係団体の皆様の活動にも、必ず手ごたえが高まっていくと思います。開催まで4か月しかありませんが、ぜひ、教材として配信されることを望みます。

教育現場には、SDGsも浸透してきていますし、いろいろな教材や学ぶ機会を活用し環境教育を進めているように思います。札幌市や関係団体、教育現場の皆様の地道な活動や環境を大切にしたいという思いが結集され、その成果が表れてきています。大きな会議も招致できましたことを誇りにし、さらに進めていくことがいいのではないかなと感じました。

○大沼会長 すてきな話をありがとうございました。

私がまとめるのは何も要らないなと思って聞いていました。本当に、G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合を市民みんなの誇りとして思えるような、そして、なかなか広報できない、伝わらないと皆さんが再三おっしゃっていますが、これほどの大きなチャンスはないと思いますから、本当に胸を張っていいと思います。子どもも、保護者も、事業者も、いろんな市民も、札幌の方も、そうではない方も、これを機に、目いっぱい、弾はたくさんあると思うので、これがアピールにつながればいいなと思います。

最後に、地味な話を一つだけさせていただくと、私の同業者が環境のいろんな調査をしているのですが、アンケートで、あなたは環境の取組をしていますかと聞くと、結構細か

くいろんなことをやっていると答えるのだけれども、あなたの周りの人はどのぐらいやっていると思いますかと聞くと、みんな、周りの人はやっていないと答えるのですよね。これは面白いなと思って、私はちゃんとやっている、周りの人たちはやっていないように見えると。私は環境心理学をやっているの、これは一体何なのだろうなと思って、一緒に研究している人がいろいろ分析している最中なのです。環境というのはニュースにならないんです。災害だと、ニュースでわっとなつて、そこでみんなが何かやっているというのが見えるのですよね。大雪が降ったとか猛暑だかは、確かにニュースにならないことはないのですが、そんな大ニュースにはならなくて、日々の地味な積み重ねが多いのです。その辺で、本当はみんながやっているのだけれども、見えにくいものを、では、どうやって見える化したらいいだろうと、実は、我々研究者の立場からも同じことを考えているということがあります。学校の先生もこんなにやっている、行政もこんなにやっている、皆さんもこんなにやっているという中で、実はやっているのですよ。実はやっているのだけれども、やっていないように見えてしまうという部分、それは一体何でだろうと、我々研究サイドからも探っている最中だということの一つご報告したいと思います。

そういう意味では、G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合は、願ってもいなかった本当に恵まれたチャンスだなというふうに感じた次第です。

皆さん、ほかに何か言い残したとか言っておきたいこととかはありますか。

(「なし」と発言する者あり)

○大沼会長 議題の内容から大分遠ざかった部分がないわけではない気もしますが、でも、非常に大事な議論、ご指摘をいただいたと思います。

それでは、議事次第の(1)を終えたというところで、この後は事務局から連絡事項等をよろしく願いいたします。

○事務局(石田環境教育担当係長) 皆様、今日は貴重な意見をどうもありがとうございました。

それでは、事務局からご連絡させていただきます。

来年度の第1回推進委員会は6月頃を予定しておりますけれども、任期途中ではございますが、5月22日をもちまして村形委員がご退任予定となっております。そのため、会議への出席は本日が最後となります。

村形委員におかれましては、2020年より3年間、本委員会にお力添えをいただきました。どうもありがとうございました。

一言、ご挨拶いただければと思います。

○村形委員 3年間、こちらの委員をやらせていただきまして、いろいろな視点から勉強させていただきました。私も、今年でPTAが終わりますが、保護者の立場として、先生方にプレッシャーを与えるつもりはありませんし、先生方の大変さもすごく分かっていますけれども、これだけ多くの方々子どもたちのためにたくさん考えていただいて、いろんなことを進めていただいているということはすごくありがたいなと思いました。

私がいろいろ携わっている部分では、札幌市PTA協議会を通して教育委員会さんとの関わりもありますし、10区を束ねているところですから、先ほどのPRのことで、保護者の皆さんにアピールする場所としてはいい場所ではないのかなと思っています。事務局を通して何か発信できる部分もあるかと思っていますので、せっかくだから、もしよければ、ぜひ皆さんと一緒に環境問題もやっていきたいなと思います。

来年はまた違う委員がいらっしやると思いますし、いろんな意見があると思います。私も、人生経験として、3年間、すばらしいこの委員会に参加できたことを本当に感謝しています。

ありがとうございました。

○事務局（石田環境教育担当係長）　ありがとうございました。

また、年度が明けましたら、来年度の第1回推進委員会の日程調整をさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

### 3. 閉　　会

○大沼会長　それでは、これもちまして、令和4年度第2回札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を終了いたします。

本日は、長時間にわたり、お忙しい中、またお寒い中をご出席いただきまして、どうもありがとうございました。

以　　上